

第15期 第8回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成30年1月26日（金）午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 市役所 6階 601会議室
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、森田委員、市川委員、信山委員、田中委員
白井委員、加藤委員、菊地委員、小林委員、棚井委員、千葉委員
(順不同)
- 傍聴人 0名
- 議題 (1) 第15期緑化推進計画提言書（案）について
(2) 提言書の取りまとめについて
(3) 手交式について
- 配付資料 (1) 第15期緑化推進計画提言書（案）
(2) 緑化推進委員会提言メモ
(3) 手交式について

会議の要旨

まず、委員より資料（2）「緑化推進委員会提言メモ」について説明があった。続いて、委員長より資料（1）「第15期緑化推進計画提言書（案）」について説明があった。説明後、以下のとおり質疑があった。

委員長

タイトルについて、「都心に最も近い、緑と田園の都市づくり」がよいと考えているがいかかがか。

委員

より強い意味を込めて「都市づくり」ではなく、「都市小平」のほうがよい。

委員長

では、「都心に最も近い、緑と田園の都市小平」としたい。これまで「プチ田舎」という言葉を使ってきたが、緑化推進委員会として独自の提言であるほうがよいと

考えたため、「プチ田舎」という言葉は使わないようにしたが、趣旨としては同じである。

委員長

西武線沿線に花を植えるという案があったが、たけのこ公園の竹林のなかにムラサキハナナを植えてみるのは効果的であると思う。忌地の問題もあるが、2年～3年はうまくいくのではないかな。

委員

四季折々でできないか。

委員長

そこまでできるかはわからないが、ヒガンバナなどでもできるかもしれない。いずれにしても、竹林の緑と花の色が合わさるのは効果的であるように思う。

委員長

JRのトンネル排水についてポンプアップ工事はいつ行われたのか。

事務局

新小平駅のポンプアップ工事が行われたのは平成23年である。

委員長

JRはトンネルの排水のためにこの先ずっと下水料金を支払い続けなければならないが、用水に流せるとなると、その分のコストがかからなくなる。双方においてメリットのある話ではないかと思う。

委員

落ち葉銀行の創設に関して、原発の問題があるなかで腐葉土の利用は現在どうなのか。

事務局

現在も規制中であり、原則として取扱いを控えるよう求められている。

委員

農作物に影響が出ることも考えられるため、農家では腐葉土を使用していないのではないかな。

事務局

農作物への影響というより、自家製の腐葉土は手間が掛かるため、使用している農家は少ない。

委員長

腐葉土をつくることが目的ではなく、あくまで落ち葉を集積することに利益がある仕組みづくりを目的としたい。腐葉土というのは利用の一例である。

委員

花植えについて用水の土手を候補にいれるのがよい。親水整備されたところはどうか。用水によって植える品種を変えるのもよい。地域密着型でやってみる。地域で植える花の募集をして、地域で植えていくのがよいのではないか。

委員

植えたあとの管理が大事。同じボランティアに任せきりはよくない。

委員長

地域で協力して取り組むのがよい。例えば、学校の総合学習など。ボランティアのやりがいだけでなく、積極的に参加したくなるような工夫をしたいところである。

委員

タイトルは、「都心に最も近い、緑と田園の都市小平」にするとしたが、「小平」はひらがなで表記したほうがよいのではないか。「小平」とすると小平町もある。

委員長

では、「都心に最も近い、緑と田園の都市こだいら」とする。副題に「小平市緑化推進計画」をいれる。

事務局の説明

—— 「提言書の取りまとめについて」は、事務局案で了承される（内容省略） ——

事務局の説明

—— 「手交式について」は、事務局案で了承される（内容省略） ——

以上